

平成 31 年度  
事業計画書



# 平成31年度 社会福祉法人 啓友会 事業計画書

計画の期間／2019年4月1日～2020年3月31日まで

## はじめに

社会福祉法人啓友会は、1975年の知的障害者更生施設（当時の名称は精神薄弱者）の開設以降、障害のある人の「暮らし」を支える事業を主として展開してきました。「暮らし」を支えるとは、誰もが安心できる住み慣れた場所で、いつまでも自分らしく、豊かな人生をおくれるように支援する事であり、この基本的な考え方が、当法人の理念や基本方針となっております。

法人理念の本質をしっかりと認識し、40余年の歴史の中で、先人が積み上げてきた研鑽や技術に新しい変化や工夫を重ねながら利用者の生活の質の向上と、共生社会の実現に向けた運営を実施していきます。

## （1）理念と基本方針

「施設の主人公は利用者である、私達は障がいを持つ人達が生活を営んでいくうえでの援助者であり、また施設は隔離された特殊な社会ではない、地域社会の一部である」を理念として、次のことを基本方針とします。

1. 利用者のための施設
2. 豊かな生活がおくれる施設
3. 地域に根ざした施設
4. 地域の中での普通の暮らし

## （2）実施する事業

**【障害者支援施設 南海寮】** 事業所番号 4313000459

生活介護事業、施設入所支援事業、自立（生活）訓練事業、短期入所事業、日中一時支援（天草市、苓北町）、生計困難者に対する相談支援事業（社会福祉法人経営者協議会）

**【南海寮グループホーム】** 事業所番号 4323000036

共同生活援助（介護サービス包括型）

**【相談支援事業所なんかい】** 事業所番号 4333000620

特定相談支援事業

### (3) 事業の内容

#### 【生活介護】

施設入所者及び、自宅等から通所利用される利用者の方々への日中活動の場として、自立促進と生活の質の向上を図るとともに、生活全般において必要な介護、創造的活動や生産活動、レクリエーションなどの機会を提供し、健やかに生き生きとした日常生活への支援を実施する。

#### 【施設入所支援】

居住の場を提供し、生活全般において必要な介護を行うとともに、それぞれのライフステージにあった、健康的で安全な暮らしを提供する。

#### 【自立（生活）訓練】

在宅者を対象にして日中活動の場として、自立した日常生活や地域生活を営むことができるよう、生活能力の維持、向上のために必要な支援や訓練を行う。（標準期間2年、長期利用3年）

#### 【短期入所支援】

居宅において生活されている方に対して、家庭の事情等で自宅での生活が困難な時や、介護を行う家族等のレスパイトケアとして宿泊を含め短期間の入所を行い、日中活動と併せて生活全般における必要な支援を提供する。

#### 【日中一時支援】（天草市、苓北町、上天草市委託事業）

日中において監護する者がいない場合や放課後等において、一時的な見守り等の支援が必要な障害児者等の日中における活動の場を確保し、必要な支援を提供する。

（天草市・苓北町の委託事業）

#### 【共同生活援助】

地域の中で自立に向けた日常的な暮らしを支援する。生活全般における介護をはじめ、調理や洗濯、掃除等の生活に関する相談及び助言、支援を行う。

#### 【特定相談支援】

サービス等利用計画書及びモニタリングの作成を行う他、障害のある方や家族からの相談に応じ、情報提供や助言を行うとともに市区町村及び障がい福祉サービス事業所等の連絡調整を行う。

#### 【生計困難者に対する相談支援事業】

生計困難者に対する相談支援事業（レスキュー事業）：コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置し、対象者に対し相談支援を実施する。既存の制度や社会資源活用の他、制度を超えた支援等も含め関係機関や当該支援事業所と連携して実施する。

## (4) 運営の基本姿勢

### 一、安心・安全・信頼のサービスの提供

わたしたちは常に安心・安全と信頼されるサービスの提供に努めます。

### 一、誰からも必要とされ、求められるサービスの探求と実践

わたしたちは常に利用者本位のサービスを基本とし、専門性の向上と創意工夫に努めます。

### 一、働く人が輝ける魅力ある職場環境づくり

わたしたちはスタッフ個々のパーソナリティを尊重し、成長する機会を与え、それぞれが輝くことのできる魅力ある職場環境づくりに努めます。

### 一、日々進化し変わり続けるチャレンジ

わたしたちは現状に満足することなく、常に前進するためのチャレンジをし続けます。

### 一、地域をより良くする地域福祉創造

わたしたちは共に支え合う地域づくりのために積極的に行動します。

## (5) 利用者本位サービス 8つの使命

1. 地域との関わりの中で充実した暮らしを送る事が出来るよう支援する。
2. 利用者の個別ニーズ、意志や希望などを踏まえたサービス、専門的な知識や技術に基づく  
ハイクオリティなサービスを提供する。
3. 利用者が必要とする情報をわかりやすく伝える。
4. 利用者の自己選択・自己決定を支援する。
5. 残存能力の維持や潜在能力の開発を支援する。
6. 意見や要望、苦情が述べやすい環境、関係を作る。
7. プライバシーを保護する。
8. 一人の人間としての尊厳が維持出来るよう支援する。

## (6) 平成31年度のスタッフ重点目標「3本の柱」

- 1、意思決定支援、高齢化支援、社会生活支援を充実させよう！
- 2、何事にも興味と関心を持って、組織を知り、チームを知り、仕事を知ろう！
- 3、利用者さんに対して親しみのある丁寧な言葉づかいと対応を徹底しよう！

## 【具体的な取り組み】

### 1、意思決定支援、高齢化支援、社会生活支援を充実させよう！

#### ○意思決定支援

利用者個々の意思や意向を最大限尊重する為、関わりを深めながら表情や仕草やその行動からも意向を理解し、本人の望む支援に繋げるための意思決定支援に取り組みます。また、利用者の意思決定を重視し、障がいの状況に合わせ個々の意思や意向の確認を行いながら個別支援を実施します。

#### ○高齢化支援

高齢による重度化予防、身体機能と体力の維持、健康増進への取り組みとして、個々のアセスメントに基づいた身体運動、リハビリ、口腔ケア、レクリエーション、リトミックなどの取り組みを行い、残存能力や潜在能力の開発に努めます。

#### ○社会生活支援

食事、睡眠、排泄、衣類の着脱、整容、マナーなどの基本的な生活習慣の確立のため、個々の障害特性や能力、強みや意向に応じた生活目標を立て、規則正しい生活と社会的自立を促すための支援を行います。また、外出や買い物、旅行等の機会を多く提供し、社会資源の活用を通して地域社会の中でそれぞれがエンパワメントできるような支援に取り組みます。

### 2、何事にも興味と関心を持って、組織を知り、チームを知り、仕事を知ろう！

チェスター・バナード（経営学者）が提唱している組織の3要素に、「共通の目的を持っていること（目的意識）」「お互いに協力する意思を持っていること（貢献意欲）」「円滑なコミュニケーションが取れること（情報共有）」があります。この3要素を満たし、組織を組織として運営していくためには、組織の中にある小さな組織（事業所や部署、委員会等）や個人が、その中で行われているあらゆる出来事をできるだけ多く把握・理解しておく事が必要です。それぞれが日常の業務領域を超えて、組織やチーム、メンバーの事に積極的に興味と関心を持って、知ろうとする姿勢や行動が、目的意識や貢献意欲、円滑な情報共有に繋がり、そこから新たな知見や発想、改革の意識が生まれ、組織力の強化に繋がると考えます。

職種、部署、委員会等の会議や意見交換を活性化させ相互の機能・連携強化を図ります。（委員会、棟会議、リーダー会議、個別支援検討会議、委員長会議等）また、OJTを基本とした育成や、施設内研修、職員への説明会等を随時実施し、組織内の意思や目的の共有に努めます。

### 3、利用者さんに対して親しみのある丁寧な言葉づかいと対応を徹底しよう！

「意識を変えよう」

施設では、利用者さんとの関係が長期化し、家庭的な関わりが見受けられます。このこと自体

が悪いわけではありませんが、それが「馴れ合い」となり、言葉遣いの乱れとなって表れる場面があります。若い職員が、自分の親や祖父母くらいの利用者に対してタメ口や「〇〇すっとね、〇〇したっやろ」「こっちにおいて」「何しよとや」などという場面を見聞きすることがあります。若い職員だけに限らず、中堅やベテランの職員にも同じ事が言えますが、こうした言葉遣いは「親しみやすさ」とは異なるものです。丁寧な言葉遣いや敬語を使っても「親しみやすさ」は十分表現できますし、それができなくては対人援助サービスのプロとは言えません。そういった言葉を、仕事の中で使うことの恥ずかしさに私たちは気付くべきです。乱れた言葉遣いの放置は、やがて暴言や威圧的な態度といった言動として現れるという危機感を持って、敬称や丁寧な言葉遣いの徹底と、利用者の尊厳と人権を守り、一人ひとりの想いに寄り添った支援を実践します。（虐待防止に関する施設内研修の実施、使命達成度調査等）

## （7）主な短期計画

1. 障害児計画相談支援事業の指定申請及び事業実施（7月）
2. 生活支援員1～2名の採用
3. 安全衛生管理者の養成（資格取得）
4. 相談支援専門員の加配（1名体制から2名体制）
5. 職員処遇向上のための取り組み
  - ① 処遇改善加算の使途検討（2019年10月の消費税増税に合わせた新たな加算要件新設に伴う検討）
  - ② 年次有給休暇の取得率の向上、計画的取得（2019年4月より年10日以上の子休が付与される労働者に対して時季を指定して5日以上を取得させることが義務化することへの対応）
6. 地域における公益的な取り組み
  - ① 地域の福祉的課題やニーズの把握と課題解決のため、本町地区の民生委員・児童委員、区長等交えた意見交換会の企画・実施。（6月～7月頃）
  - ② 本町戸の原地区の「通いの場」（毎週木曜日、公民館にて開催）への参加者の送迎。
  - ③ 利用者、ご家族、地域住民等が一同に楽しむことができる夕涼み会の企画・実施。

## （8）法人運営

公益性や公共性といった社会福祉法人としての社会的責任を自覚し、地域ニーズに応じた事業展開等の使命を果たすと共に、ガバナンス体制の機能の充実や透明性の確保、コンプライアンスを遵守した法人運営・経営を行っていきます。

（情報公開、理事会・評議員会の適切な運営）※6月の定時評議員会で理事並びに監事の改選

## (9) 施設整備、建物補修、備品購入等の計画

1. ふれあい棟1階旧洗濯室のスペースの改修（相談支援事業所の事務所として活用）
2. ふれあい棟2階トイレの改修
3. 通所センター内・外装補修等
4. 本館屋上安全带ロープの設置

## (10) 健康管理

利用者の高齢化、重度化に伴い、体力や病気に対する抵抗力（免疫力）の低下が顕著になっている。歩行や身体運動、リハビリ、口腔ケアなど専門家の指導の下実施しながら身体機能と体力の維持及び、抵抗力を高める取り組みを進めると共に、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症の予防のため除菌・消臭機を活用し、手洗い、うがい、消毒の徹底、共用タオル・共用コップの使用は禁止の徹底を行います。

また、歯科治療については、外来受診の他、週1回の訪問歯科診療を継続すると共に、食後の歯磨き支援、起床時と夕食後の口腔ケアを継続することで、口腔内の衛生と誤嚥性肺炎の防止に努めます。

利用者の健康管理では、生活習慣病検診、胸部X線検査及び健康診断を定期的を実施し、疾病の予防と早期発見・治療に努めます。

職員の健康管理については、生活習慣病検診、法定健診を年1回（夜間勤務に携わる者には年2回）の他、腰痛健診を実施し職員の健康維持・増進を図ります。

## (11) 防災・防犯

利用者の多くは危険の回避が難しく、緊急時には自力での避難が困難な利用者への配慮と支援が必要であることから、火災をはじめとし風水害や地震など自然災害が何時発生しても対応できるように人命の安全確保を最優先に、被害を最小限に留める為の訓練を定期的を実施します。

また、利用者の安心・安全を担保するため、外部からの不審者や侵入者を防ぐための機器（赤外線センサー、防犯カメラ）を活用すると共に、万が一に備えた防犯訓練も実施します。

## (12) 地域との交流

地域の方々に施設及び障がいを理解してもらい交流を深めるために、ボランティア等の積極的な受け入れの他、地域サークル等への施設設備利用を促進します。また、中高生のワークキャンプ、福祉体験、大学・専門学校の実習を積極的に受け入れます。

地域行事やイベントとして、障害者施設合同作品展示販売会、本町ふるさと祭り、まゆ姫夜祭、酒井病院文化祭等における苗物や木工、手芸、紙製品等の販売の他、とれたて市場や海鮮蔵における常設販売コーナーを通し、情報発信と地域との交流を促進していきます。

情報公開では、ホームページを活用し施設の取り組み等の紹介の他、関係機関や他施設、近隣地区へ機関紙「なんかい」を配布し広報・啓発に取り組んでいきます。

### (13) 権利擁護・虐待防止

倫理綱領や行動規範の周知・履行の徹底や、当該外部研修の参加、施設内研修の実施、職員アンケート・セルフチェック等を実施し、人権倫理意識の向上と虐待をしない、させない組織風土づくり、虐待防止体制の質の向上に努めます。特に行動問題（強度行動障害者等）を抱える利用者に対しては、根拠に基づいた合理的・科学的なアプローチによる専門的な支援をチーム全体で実施します。また、行動制限についても、定期的に支援方法の協議を行い、身体拘束の適正化を図るなど、適切な支援の提供に努めます。

### (14) 人材の確保・育成・定着

デジタル時代の昨今、ホームページ等のツールを活用した採用戦略を強化し、法人の魅力の発信を積極的に行い、人材の確保に繋げていきます。また、育成については、メンター制度と個々の育成プログラムに沿った育成を基本とし、OJT や OFF-JT を中心に職員の資質向上に努め、定着については、職員処遇の向上や職場環境の改善に取り組んでいきます。

### (15) 利用者サービス

- (1) 地域イベントや行事参加の他、生産品の販売等を通して、地域との結びつきと理解を深め、共生社会の実現に向け取り組みます。
- (2) 利用者一人ひとりを尊重し、倫理意識を持ったサービスの提供に努めます。
- (3) 個別支援計画は本人及び、家族の意向を踏まえ作成し、半年毎に見直しを行います。
- (4) イベント・給食・環境美化委員会等への利用者の参加や、自治会（かたろう会）活動を通し、利用者の要望や意見を取り入れる事は勿論、自ら意見を主張出来ない人達へも十分配慮し、生活の質を高め、生き甲斐ある生活の実現を目指します。
- (5) 旅行や行事、各種イベントへの参加をはじめ、買い物やカット散髪、カラオケ、外食など、利用者個々の意向に沿った外出の機会を可能な限り確保し、楽しみながら地域との関わりを深め、社会性を高めます。



# 勤務体制

## 管理・事務部門

施設長・管理者	松浦 郁太	
副施設長	松浦 光毅	
事務長	佐藤 葉子	
統括部長	中嶋 幸三	※サービス管理責任者兼務(生活介護)
支援課長	倉田 美晴	※サービス管理責任者兼務(生活介護・地域生活)
主任	松浦 徳彦	
事務員	松本 安純	

## 支援課(ひまわり)

主任	森山 房雄					
副主任	金子 史					
支援員	田中 雄三	中野 一文	高瀧 大介	入船 友輔	金子 恵三	立川 啓
	石原美恵	松下加津美	山本富喜子	小川 明奈	西岡 咲貴	
非常勤職員	岡部 誠	松本廣作	野島 広和	田淵 竜法	秦 小丹	

## 支援課(さくら)

主任	唐津 伸康					
副主任	井上 千恵美					
支援員	金子 孝史	坂本 悠介	大中 佑介	山本 貴寛	池田 恭輔	竹崎 栄喜
	中尾 豊	浦本 玲子	松下ひかる	松本 昌子	鶴戸 愛	柴田 怜奈
	長井 麻衣					
非常勤職員	玉田 義彦	有馬 康博	小山 千尋			
	岡部起世美	小松山直美	砂原喜枝子			

## 相談支援・生計困難者に対するレスキュー事業

主任相談支援専門員	松本かおり	
相談支援専門員	井上千恵美	※生活支援員兼務
CSW	松下加津美	※生活支援員兼務

## 医務

看護師	原田 公子	小野 理恵
-----	-------	-------

## 給食

管理栄養士	田中 佳子					
調理員	有馬みゆき	荒巻 奈月	高見美和子	長田 舞	藤木 洋子	開田卯多子
非常勤職員	松浦 恵子	平田 輝孝				

## 支援課(通所センター)

主任	大仁田 美穂		
支援員	藤木 博文	小川 由利	浦上 寛司
生活訓練支援員	京塚 香菜		

## グループホーム

支援員(専従)	櫻井 裕己			
支援員(兼務)	高瀧 大介	山本富喜子	西岡 咲貴	
世話人	鶴戸 善美	堤田美枝子	上原恵美子	植村りみ子

## ショートステイ・日中一時

支援員	高瀧 大介	小川 明奈
-----	-------	-------

## 用務員

非常勤職員	森田 裕子	吉永 有紗	岡田 唯	小場佐萌々香
-------	-------	-------	------	--------

## 研修参加計画

<b>社会福祉協議会主催</b>		
福祉職員キャリアパス	初任者コース	中尾、立川、竹崎
〃	中堅コース	金子け
〃	管理職コース	大仁田
スーパーバイザー養成研修		山本ふ
指導的職員研修会		田中ゆ
リスクマネジメント研修会		金子け
福祉職場のOJT推進研修会		櫻井
福祉職員レクリエーション研修		松下ひ
カウンセリング研修会		西岡
人材育成セミナー		京塚
「伝える力」向上研修会		金子た
<b>熊本県主催</b>		
強度行動障害支援者養成研修	基礎研修	立川、中尾、竹崎
〃	実践研修	田中ゆ、金子け、中野
相談支援従事者初任者研修		山本ふ、松下か
〃	現任者研修	大仁田、金子ふ
サービス管理責任者		田中ゆ、中野、高瀧
〃	現任者研修	中嶋、倉田
虐待防止研修会	支援者研修	鶴戸
〃	サビ管研修	井上
〃	管理者研修	佐藤
福祉サービス苦情解決研修会		第三者委員
<b>全国・九州・県協会関係、その他</b>		
全国知的障害施設関係職員研修会		倉田、井上
九州地区知的障害施設関係職員研修会		松本か、浦本、田中よ
全国グループホーム等研修会		高瀧、世話人
九州地区種別部会研修会		松浦の
職員研修会		京塚、池田、長井
人権研修会		入船、山本た、柴田
利用者セミナー		西岡
職員家族合同研修会		倉田、金子た、櫻井、松本ま
アンガーマネジメント研修会		坂本
リーダーシップ研修		田中ゆ
フレッシュセミナー		小山

## ケース会議・施設内研修計画

月	テーマ	担当者	ケース	担当者
4	平成 31 年度事業計画について	松浦光	山下 竹男	櫻井 裕己
			嶽本 知久	唐津 伸康
5	キャリアパスと人事考課について	松浦徳	桑野 淑勝	田中 雄三
			小塚 拓斗	中野 一文
6	障害者総合支援法のあらまし	松本か	小場左 萌々香	西岡 咲貴
			黒木 俊介	大中 佑介
7	入所施設の役割と課題	井上	吉永 佳央理	京塚 香菜
			奥村 恵美	柴田 怜奈
8	ABA（応用行動分析学）講座	高瀧	石井 将一	坂本 悠介
			三浦 保幸	池田 恭輔
9	救急法実技研修（消防署）	中野	個別支援検討会	
10	ハラスメント防止研修	唐津	丸木 剛志	浦上 寛司
			新美 壽穂	森山 房雄
11	就業規則について	佐藤	堀田 拓夢	山本富喜子
			松元 博幸	入船 友輔
12	褥瘡の予防と治療について	原田	森 健太郎	藤木 博文
			瀧下 瑞江	浦本 玲子
1	相談支援の技法と論理	山本富	福原 五月	井上千恵美
			高瀬 行雄	山本 貴寛
2	業務改善について	坂本	川崎 恵実	小川 由利
			三原 英二郎	大中 佑介
3	個別支援検討会			

※ ケース発表については、個別支援計画に基づき、本人の意向やストレングス視点に沿った支援の経過や課題を報告すると共に、改善策などを話し合う。

## 職務分掌

総務、財務、統括関係		
施設統括	施設長	
公印の管理	施設長	
文書の審査	施設長	
人事並びに職員の職務	施設長、中嶋、松浦光	
労務管理	施設長、中嶋、松浦光	
予算の統括	施設長、佐藤	
収入及び支出事務の審査	施設長、佐藤	
予算、決算	施設長、佐藤	
銀行等取引印鑑の管理	施設長	
預金通帳の管理	佐藤	
財務状況等の情報開示	松浦光	
財産の管理事務	佐藤、松浦光	
庶務、経理に伴う証明事務	佐藤、松本安	
収入、支出の月次報告	佐藤	
小口現金の管理	松本安	
諸規程等の作成	佐藤、松浦光	
支出事務の整理保管	佐藤、松本安	
文書の収発、整理保存	松本安、松浦光	
理事会・評議員会開催に係る事務	佐藤、松浦光	
理事・評議員・解任委員に関する事務	佐藤、松浦光	
施設の保険に係る事務	佐藤	
各種帳簿の記入、作成	松本安	
収入印紙、郵便切手の受払い	松本安	
各所鍵の管理	佐藤、倉田	
物品の管理に伴う事務	松浦光、各担当	
リース物件の管理	佐藤	
給付費請求関係	松浦光	
所轄庁との連絡調整事務	佐藤、松浦光	
指定申請等に関する事	松浦光	
補助金、助成金に関する事	佐藤、松浦光	
各種調査票、アンケート記入	松浦光、中嶋、佐藤	
職員の採用・退職に伴う事務	佐藤	
給料、諸手当計算及び支給	佐藤	
社会保険、雇用保険、労働保険事務	佐藤	
所得税、住民税、年末調整事務	佐藤	
グループホーム利用者負担金支払事務	佐藤	
旅費の計算及び支給	佐藤	
任用報告	佐藤	
自動車税減免手続き	松本安	
福利厚生センター事務	松浦光	
制服の貸与、管理	松本安	
出勤簿の取扱い	松本安	
勤務計画の作成	中嶋	
各種アカウント・パスワードの管理	松浦光	
各種事務書類データの管理	松浦光、各担当	
各種共通フォームの作成	松浦光、松本安	
各種共通名簿の作成	松本安	
書籍の管理	松本安	

総務、財務、統括関係		
掲示物の管理	松本安	
事務消耗品の受払い	松本安	
事務機器の管理	松浦光	
福祉の森他システム管理	松浦光、松浦徳、松本か	
各種マニュアルの作成	中嶋、松浦光、倉田	
コンプライアンスの推進・指導	中嶋、松浦光	
利用者の預り金に関する事	松本安	
利用者の利用契約に関する事	松浦光、松浦徳	
利用者の施設利用料金	松浦光	
利用者の年金事務	松本安	
利用者の手帳等に関する事	松本安	
利用者の保険証に関する事	原田、松本安	
利用者の医療費に関する事	松浦光、松本安	
利用者の保険に関する事	松浦光	
利用者の各種行政手続き代行	松浦光、松本か、松本安	
家族会との連携・連絡調整	松浦光	
慶弔・頂き物の管理	松本安、佐藤	
所轄庁への事故報告	倉田	
研修計画	中嶋、松浦光	
地域のボランティア受入れ	倉田	
施設実習、施設見学受入	倉田、松本か	
職員配置、日程表作成	中嶋、倉田	
各種記録・ファイル・日誌	倉田、各担当	
利用者自治会(かたろう会)	森山	
個別支援計画、評価、相談支援業務		
個別支援計画作成	中嶋、倉田、松浦徳	
サービス利用計画作成	松本か	
相談支援業務全般	松本か	
生活困難者レスキュー相談支援	松下加、松本か	
医 務		
医薬品・器具の管理	原田、小野	
保健衛生・健康管理	原田、小野、松本昌	
病院受診計画	原田	
医師への相談、連絡調整	原田、小野	
栄養・給食		
栄養ケアマネジメント	田中佳	
献立作成	田中佳	
給食材料の管理	田中佳、有馬み	
調理器具・備品の管理	荒巻	
衛生管理	田中佳、荒巻	
嗜好調査	田中佳	



## 委員会要項

委員会名	職務分掌
安全衛生委員会	労働衛生管理全般、メンタルヘルス、健康相談、健康指導、腰痛予防対策、福利厚生、その他職員の心身の健康・職場環境改善に資する活動
健康保健委員会	利用者の衛生管理、健康管理、健康相談、リハビリ、口腔ケア、身体等機能維持向上、ADL・老化状況調査、救急法・ハイムリック法等指導、感染症予防、その他利用者の健康に資する活動
環境美化委員会	環境美化、清掃、建物管理、水管理、車輛の管理、掃除当番決め、営繕、その他電気等設備管理
生活委員会	基本的な生活習慣の励行・啓発・指導、物品・備品・消耗品の管理、整容・散髪、衣類管理、寝具管理、調理実習、自立生活訓練・地域移行訓練、その他利用者の日常生活の質向上に資する活動
広報委員会	広報紙の発行、ホームページ管理、パンフレット、写真の管理、その他広報活動全般
イベント委員会	各種行事の計画または企画・実行、日帰り・一泊等の旅行の計画または企画・実行、行事・旅行等の考案
防災管理委員会	避難訓練、防災訓練等の計画実施、消防等設備点検、火気点検、防災に係る啓発、職員緊急連絡システム（メール、SNS、電話）管理、防災・防火・防犯全般
研修育成委員会	OJT 推進、施設内研修の企画、OFF-JT 推進、SDS 推進、学生実習受入れ、学生施設見学受入れ、新人職員オリエンテーション及び研修、人材育成、朝礼当番決め、その他職員の資質向上に資する活動
人権倫理委員会 (虐待防止委員会)	虐待防止・使命達成度チェック、虐待防止や権利擁護に関する施設内研修等の実施や啓発及び指導、虐待防止相談窓口、身体拘束等の適正化
学習・レクリエーション委員会	教養娯楽全般、余暇活動の充実・計画・考案、誕生会の実施、書道、生花、真美体操、各種クラブ活動、暑中見舞い・年賀ハガキ・買い物等の学習、レクリエーションの企画、教材器具の管理
生産活動委員会	花苗・野菜苗管理、園芸、木工・手芸・紙製品の製作・販売、販路拡大・販売促進・商品開発・ブランド化推進・パッケージデザイン考案等のマーケティング活動全般、農機具管理、展示販売、利用者の作業能力向上、工賃アップ
サービス向上委員会	CS 満足度調査、苦情・要望相談受付、リスクマネジメント、日常的な業務における各部署・部門からの意見聴取と業務改善・適正化
将来構想・経営検討委員会	公益的取り組み計画（充実残額等）、短期・中長期計画の立案、将来の組織構想・事業展開構想の検討・経営企画、人材確保、組織ブランディング
給食委員会	調理器具・備品管理、厨房・食堂内衛生管理、嗜好調査、献立考案、食育、給食・栄養関連全般

## 委員会名簿

委員会名	委員長	副委員長	委員
安全衛生委員会	施設長	中嶋幸三	産業医、松浦光毅、佐藤葉子、倉田美晴、原田公子、中野一文
健康保健委員会	石原美恵	松本昌子	原田公子、小野理恵、金子孝史、中野一文、坂本悠介、高瀧大介、松下加津美、浦本玲子、池田恭輔、柴田怜奈、長井麻衣
環境美化委員会	田中雄三	金子恵三	森山房雄、大中佑介、山本貴寛、金子史、鶴戸愛、松下ひかる、立川 啓、中尾 豊、竹崎栄喜
生活委員会	金子 史	鶴戸 愛	山本富喜子、松下ひかる、浦本玲子、長井麻衣、小川明奈、松本安純、松本昌子、柴田怜奈 小川由利
広報委員会	松下加津美	西岡咲貴	松浦徳彦、山本富喜子、大中佑介、松下ひかる、池田恭輔、浦上寛司、小川明奈
イベント委員会	坂本悠介	大中佑介	唐津伸康、金子孝史、櫻井裕己、山本貴寛、藤木博文、池田恭輔、田中佳子、金子 史、京塚香菜、柴田怜奈、小川明奈、鶴戸 愛、西岡咲貴
防災管理委員会	中野一文	高瀧大介	坂本悠介、田中雄三、櫻井裕己、山本貴寛、藤木博文、中尾 豊、竹崎栄喜
研修育成委員会	松本かおり	松浦徳彦	倉田美晴、大仁田美穂、井上千恵美、唐津伸康、金子 史、田中佳子
人権倫理委員会 (虐待防止委員会)	唐津伸康	大仁田美穂	松本かおり、金子 史、井上千恵美、田中佳子、浦上寛司
学習・レクリエーション委員会	井上千恵美	小川明奈	山本富喜子、入船友輔、田中佳子、浦本玲子、松下ひかる、西岡咲貴、鶴戸 愛、小川由利 長井麻衣、松本安純
生産活動委員会	森山房雄	松下加津美	入船友輔、高瀧大介、金子恵三、田中雄三、中野一文、立川 啓、金子 史、石原美恵、山本富喜子、西岡咲貴、小川明奈、京塚香菜
サービス向上委員会	中嶋幸三	倉田美晴	松浦光毅、佐藤葉子、森山房雄、松本かおり、井上千恵美、松浦徳彦、大仁田美穂、唐津伸康、金子 史、原田公子、田中佳子
将来構想・経営検討委員会	松浦光毅	中嶋幸三	佐藤葉子、倉田美晴、松浦徳彦
給食委員会	田中佳子	有馬みゆき	荒巻奈月、高見美和子、長田舞、藤木洋子、開田卯多子、原田公子